



撮影 EAC

生活型：1年草
 分布：帰化植物、北アメリカ原産。
 形態等：茎は高さ30~80cm、稜があり、まばらに毛がある。葉の基部は心形で、茎を抱く。花期は初夏。葉のわきに鮮やかな紫色の花をつける。

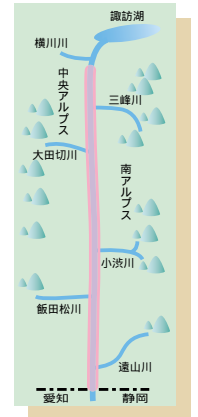


天竜川上流における分布

天竜村水神橋、泰阜村南宮橋下流・櫓橋、飯田市水神橋の4ヶ所で確認。個体数は少ない。高水敷の日当たりのよい草地に生育する。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。堤防草地、高水敷等に生育する。

生活型：1年草
 分布：帰化植物、北アメリカ原産
 形態等：茎は高さ2~3mに達する。葉は手のひら状で3~5回切れ込む。葉にも茎にも上向きの毛があつてざらつく。花期は8~9月、枝先の花はすべて雄花で、雌花は花序のつけ根にある葉の中に隠れている。バタクサとともに花粉症の原因となる植物。群生して害草となる。
 類似種：バタクサ(99p)



撮影 EAC



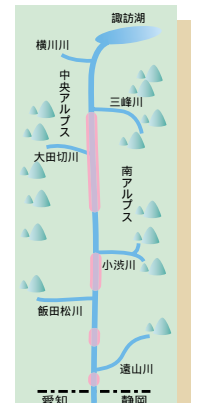
天竜川上流における分布

飯田市南部と駒ヶ根市から辰野町にかけて確認した。日当たりのよい堤防草地などに群生する。

生活型：1年草
 分布：帰化植物、北アメリカ原産。
 形態等：茎は高さ0.3~1.0mで直立し、立った軟毛がある。葉はコスモスの葉のように深く切れ込んでいる。花期は夏~秋、枝先の花はすべて雄花で、雌花は花序のつけ根ある葉の中に隠れている。花粉症の原因となる植物。群生して害草となる。
 類似種：オオバタクサ(100p)



撮影 関岡



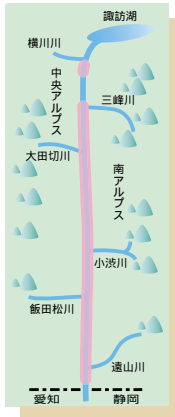
天竜川上流における分布

三峰川合流点より下流で確認した。日当たりのよい乾燥した砂れき地に生育する、河川環境特有の植物である。

生活型：多年草
 分布：北海道~九州
 形態等：茎は高さ30~50cm。丸くひとかたまりになって生育し、白い頭花をたくさんつける。茎や葉の裏、花は白色の綿毛に包まれ、全体に白みがかって見える。花期は8~10月。
 類似種：ヤマハハコ...主として山地に生育し、葉の幅は6~15mmとやや広く、表面につやがあり、縦に3本の葉脈が走る。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

三峰川合流点より下流を中心に確認した。日当たりのよい乾燥した砂れき地に生育する。河川環境特有の植物である。

生活型：多年草

分布：本州～南西諸島

形態等：茎は高さ0.3～1.0m。葉は長さ1.5～9cmで細かく裂ける。花期は7～11月、花は黄色、径1.5～2mmで多数つく。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

天竜村天竜川橋から小渋川合流点にかけてと伊那市明神橋から辰野町新樋橋にかけて確認した。日当たりのよい堤防草地等に生育する。

生活型：多年草

分布：本州（青森以南～近畿地方）

形態等：茎の高さは40～150cm、よく枝分かれし、細い枝がほぼ直角に出る。葉はへりに深いきょ歯のある長楕円形。花期は9～11月、枝先に頭花をつけ、舌状花は青紫がかった白色、中心部の管状花は黄色。

河辺で乾燥に耐える草たち

カワラサイコ、カワラハハコ、カワラヨモギなど、河辺には、「カワラ」と名のつく河辺に特有な植物がいくつかあります。「河辺」というと、湿っていて歩きにくい場所を想像してしまいます。しかし、カワラサイコやカワラハハコなどは、河辺の中でも、石がごろごろとしていて乾燥した場所 - 河原 - に生える植物です。



カワラサイコ

では、河辺に出かけて、カワラサイコを詳しく観察してみましょう。カワラサイコ（バラ科）は、草丈が30～70cm程で、初夏に黄色い花を咲かせる草本です。天竜川上流ではほぼ全域に生え、三峰川では群生しています。

まず、葉の様子を見てみましょう。カワラサイコの葉や茎は、たくさんの綿のような毛に被われています。カワラサイコは、この毛によって乾燥から身を守っていると言われています。次に、ちょっとだけ、茎を引っ張ってみましょう。きっと、びくともしないはず。実際に、移植ごてをつかって丁寧に石や土をとって見たら、まっすぐ地下に伸びる太い根は、30cm以上もありました。横に伸びる根も20cm以上広がっており、地上部から

カワラサイコは想像できないくらい、地面にしっかり根ざしています。このように、カワラサイコは、地上部は毛で被って乾燥から身を守り、地下部は太い根を深く張ることで水分を得ているようです。

冒頭に出てきたカワラハハコやカワラヨモギも、葉や茎を毛で被ったり、肉厚の根を持つことにより、乾燥した「河原」で頑張っているようです。

（関岡裕明）

カワラハハコ





撮影 今井

生活型：多年草
 分布：本州（神奈川県以西）～九州
 形態等：茎は高さ20～30cmで、株立ちする。葉は披針形か狭い長楕円状の披針形で長さ4～9cm、幅1～2cm、両面に毛がある。花期は9～11月、花は径2～2.5cm。
 類似種：ノコングク（103p）



天竜川上流における分布

飯田市JR天竜川橋の1カ所で確認した。川岸の岩場の隙間などに生育する。個体数は少ない。



撮影 EAC



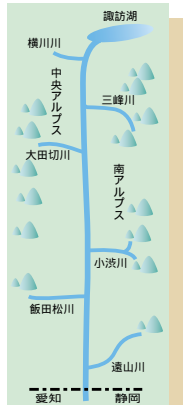
天竜川上流における分布

三峰川合流点より下流のほぼ全域で確認した。日当たりのよい堤防草地、高水敷に生育する。

生活型：多年草
 分布：本州～九州
 形態等：茎は高さ50～100cm。茎の中程の葉は長楕円形で長さ3～10cm、幅1～4cm、葉柄が無くざらつき、3脈が目立つ。花期は7～12月で、花はふつう紫色。
 類似種：ホソバコングク（103p）



撮影 EAC



天竜川上流における分布

1カ所で確認。日当たりのよい乾燥した砂れき地に生育する。生育地や冠毛の特徴から本種としたが、従来の分布地域からは離れており、さらに詳細な研究が必要である。1989年レッドデータブックでは危急種、1997年レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類とされているため分布の図示は避けた。

生活型：多年草
 分布：関東地方、静岡県東部
 形態等：茎の高さは50cm程度、上部で分枝する。根元や下部の葉は花の時期に枯れる。中部の葉は線形で長さ6～7cm、縁にはきょ歯はなく、縁と裏面に短毛がまばらに生える。花期は10月、淡い紫色の花を茎の先につけ、径は5～6cm、冠毛は赤色を帯び長さ4～5mm。



撮影 EAC



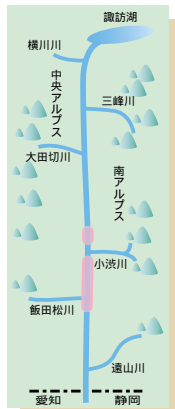
天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。日当たりのよい水際の草地や砂れき地に生育する。

生活型：1～多年草
 分布：帰化植物、北アメリカ原産？
 形態等：茎は高さ50～120cmで直立する。葉の幅は0.8～2.5cm、中央部が最も広く、基部は茎を抱かない。花期は8～10月、茎の先端に淡い紫色の花をつける。

センダングサ *Bidens biternata*

キク科



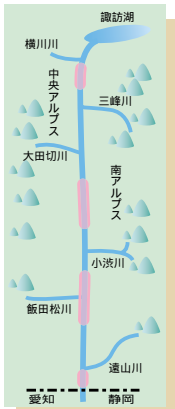
生活型：1年草
 分布：本州（関東以西）～九州
 形態等：茎は高さ50～150cm、切り口は四角形。葉は長い柄（へい）があって、数個～十数個の小葉に分かれる。花期は秋で、黄色の花をつける。果実は細長く、3～4本の刺がある。古い時代に帰化した植物といわれる。
 類似種：アメリカセンダングサ (105p) コセンダングサ (106p)

天竜川上流における分布

飯田市水神橋から中川村坂戸橋にかけて確認した。個体数は少ない。日当たりのよい堤防や高水敷の草地に生育する。

コセンダングサ *Bidens pilosa*

キク科



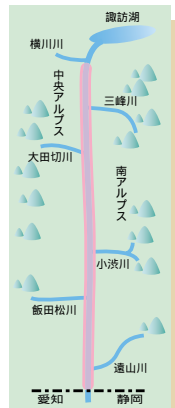
生活型：1年草
 分布：帰化植物、世界の暖帯から熱帯。
 形態等：茎は高さ50～110cm、細かい毛が多い。葉は多くは3～5個の小葉に分かれ、両面とも細かい毛が生える。花期は9～11月、黄色の花をつける。果実は細長く、下向きのかぎ状の剛毛がついた刺を3～4本持つ。
 類似種：センダングサ (105p) アメリカセンダングサ (105p)

天竜川上流における分布

天竜村水神橋から辰野町城前橋にかけての所々で確認した。日当たりのよい堤防草地等に生育する。

アメリカセンダングサ *Bidens frondosa*

キク科



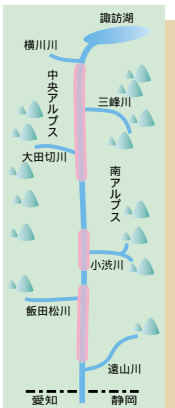
生活型：1年草
 分布：帰化植物、北アメリカ原産。
 形態等：茎は高さ1～1.5m、暗い紫色で、切り口は四角形。葉は羽状に分かれ、小葉は長さ3～13cmで柄（へい）があり、ほぼ無毛。花期は9から10月で、黄色の花をつける。果実は扁平で、下向きのかぎ状の剛毛がある2本の刺を持つ。
 類似種：センダングサ (105p) コセンダングサ (106p)

天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。水際等の少し湿った草地や砂れき地に生育する。

フランスギク *Leucanthemum vulgare*

キク科



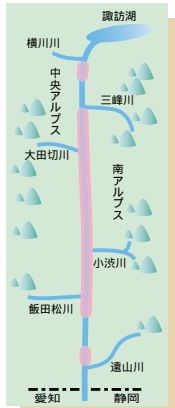
生活型：多年草
 分布：帰化植物、ヨーロッパ原産。
 形態等：茎は高さ30～50cm。葉は両面とも無毛、濃い緑色。根元のものは長い柄（へい）があり、中程の葉は無柄で茎を抱く。頭花は茎の先に単生し、白色で径5cmほど。舌状花は純白色、筒状花は黄色。園芸で「マーガレット」と呼ばれるものは「モクシユンギク」のことで野外では越冬できない。

天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。個体数は多い。日当たりのよい堤防草地などに生育する。



撮影 EAC



生活型: 多年草
分布: 帰化植物、北アメリカ原産。
形態等: 茎は高さ30~70cm。根本から出る葉は長い柄があり、3~5つの小葉に分裂するが、上方のものは分裂しない。両面に粗い毛がある。花期は初夏、花は径5~7cm、舌状花、筒状花ともに橙黄色。大群生し、花の時期には堤防が黄色に染まる。

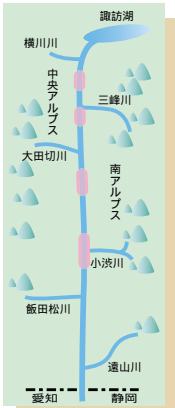
天竜川上流における分布

泰阜村南宮橋より辰野町城前橋にかけて確認した。日当たりがよく乾燥した堤防草地や高水敷などに生育する。



撮影 今井

生活型: 1~越年草
分布: 本州~九州
形態等: 茎の葉は線状披針形で長さ8~25cm、葉の葉は披針形で長さ6~15cm、基部は耳状で茎を抱く。花期は4~6月、花は黄色で径約8mm。



天竜川上流における分布

松川町台城橋より箕輪町三日町にかけて確認した。日当たりのよい草地や砂れき地に生育する。



撮影 今井



生活型: 1年草
分布: 本州~南西諸島
形態等: 茎は高さ30~60cm、葉とともに短い剛毛がある。葉は披針形でわずかなきよ歯を持つ。花期は7~10月で、頭花を多数つける。周辺の舌状花は白色、中の筒状花は淡緑色。水田等でよく見られる。

天竜川上流における分布

天竜村から箕輪町にかけて確認した。水際の湿性地に生育する。



撮影 EAC



生活型: 多年草
分布: 本州(中部地方以北)
形態等: 茎は高さ15~20cm、全体が白っぽく、毛はない。茎や葉を切ると白い汁が出る。葉は細長い線形。花期は6~8月、径約2cmの黄色の花をつける。

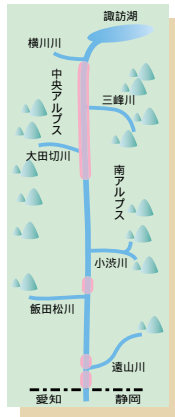
天竜川上流における分布

5地点で生育を確認した。日当たりのよい乾燥した砂れき地に生育する、河川環境特有の植物である。1997年レッドリストでは絶滅危惧II類とされているため、分布の図示は避けた。



撮影 EAC

生活型：1～2年草
分布：帰化植物、ヨーロッパ原産。
形態等：茎は高さ1～2mになり、1列まれに多列の刺がある。葉の裏面の中央脈上にも刺がある。葉は羽状に分裂したものとそうでないものがある。花は黄白色。



天竜川上流における分布

天竜村水神橋、泰阜村南宮橋下流、飯田市阿島橋、駒ヶ根市小鍛冶橋から上流にかけて確認した。上伊那に多いようである。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：帰化植物、北アメリカ原産
形態等：茎は高さ0.5～3mで、白っぽい。葉は下方では羽状に5～7裂、上方では3～5裂するかまたは分裂しない。花期は夏から秋で、黄色の舌状花と緑黄色の筒状花からなる頭花をつける。



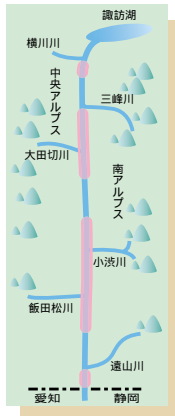
天竜川上流における分布

天竜村水神橋・天竜川橋、駒ヶ根市新宮川合流、伊那市明神橋、箕輪町箕輪橋の5ヶ所で確認した。大型の帰化植物で、群生する。



撮影 EAC

生活型：1年草
分布：北海道～南西諸島
形態等：茎は高さ30～120cmで直立し、途中から盛んに枝分かれする。全体に赤褐色の剛毛が密生する。根元の葉はへら状長楕円形、茎のものは倒披針形。花期は5～9月で、黄色の花をつける。



天竜川上流における分布

天竜村水神橋から辰野町城前橋にかけて確認した。地域により変異が多い。



撮影 EAC

生活型：多年草
分布：帰化植物、北アメリカ原産
形態等：茎は高さ1～2.5m、紫黒色で、短毛を密生してざらつく。葉は厚く、短毛があって、ざらつく。花期は晩秋、多数の黄色い花が上部にかたよってつく。
類似種：オオアワダチソウ(111p)

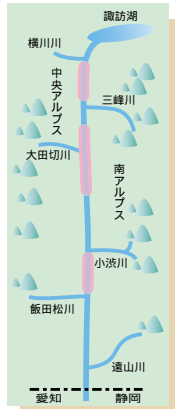


天竜川上流における分布

天竜村から辰野町にかけて確認したが、下伊那に多い。大型の帰化植物で、各地に群生し害草化している。



撮影 今井



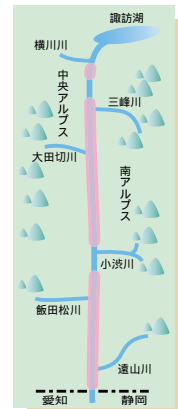
生活型: 多年草
分布: 帰化植物、北アメリカ原産
形態等: 茎は高さ0.5~1.5m。セイタカアワダチソウに似るが、茎は枝先に近い部分以外は無毛であること、葉は無毛でざらつかないこと、花期が7~8月と早いことなどの違いがある。
類似種: セイタカアワダチソウ (110p)

天竜川上流における分布

飯田市阿島橋より辰野町新樋橋にかけて確認した。セイタカアワダチソウとは逆に上伊那に多い。大型の帰化植物で群生するが、セイタカアワダチソウのように被害を及ぼすことは少ない。



撮影 EAC



生活型: 1年草
分布: 帰化植物、南北アメリカ、南ヨーロッパからハワイまで広く分布
形態等: 茎は高さ0.4~1.2m、淡緑色で黒紫色の斑点がある。葉は3つに裂けるものが多い。花期は夏~秋。果包はだ円形で全面に刺を密生、刺は先が曲がり、りん片状の毛が生える。
類似種: オオオナモミ (112p)

天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。水際の砂地などに生育する。近年増加しているようである。



撮影 井上

生活型: 2~多年草
分布: 帰化植物、地中海沿岸原産。
形態等: 茎は高さ60~120cmで、長さ約30cmの主根から直立する。葉は緑色で柔らかく、先は細とがる。花期は5~6月、花は茎の先にひとつつけ、径5cmほどで紫色。別名「セイヨウゴボウ」。欧米では根を食用とする。

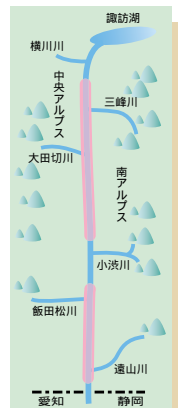


天竜川上流における分布

駒ヶ根市新宮川合流の1カ所で確認した。



撮影 EAC



生活型: 一年草
分布: 帰化植物、北アメリカ原産
形態等: 茎は高さ0.5~2m。茎や葉柄は褐紫色に染まるものが多い。葉はやや大きく、3~5つに裂ける。果包は楕円形で全面に刺を密生、表面に光沢があり、刺に毛はない。
類似種: い。
 イガオナモミ (112p)

天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。水際の砂れき地などに分布する。

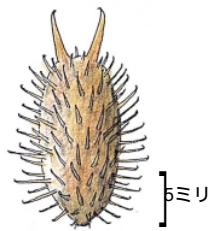
「ひっつきむし」という植物

「ひっつきむし」を知っていますか？むしと言っても、昆虫やクモなどの動物のことはありません。夏から秋、河原や森の中を歩くと、いつの間にかズボンやシャツにびっしりとひっついて、やっかいなやつです。払い落とそうとしても、かぎのようになったトゲが繊維にしっかり食い込んでいたり、ベトベトした粘着液でくっついていたりして、そう簡単には落ちてくれません。家に帰ってからも、着替えてみると靴下や下着にまで入り込んでいることがあります。

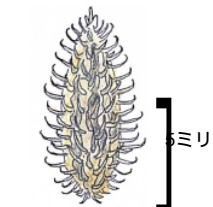
「ひっつきむし」とは、生物の正式な名前ではありません。繊維にひっついてくる様々な植物の種子を、俗にこう呼んでいるのです。種子がわざわざこんな奇妙な形に進化したのも、動物の毛や鳥の羽根にひっついて、できるだけ遠くまで種子を運んでもらおうという繁殖戦略の賜物なのです。実際、このような植物は、世界的に広く分布している種が少なくありません。

下に、天竜川の代表的な「ひっつきむし」を挙げました。ちくちくしたりベトベトしたりとやっかいなやつですが、よく観察してみれば、ひっつくために驚くほど機能的に進化した形を楽しむことができます。

(秋山幸也)



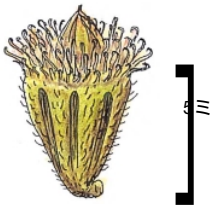
オオオナモミ(キク科)



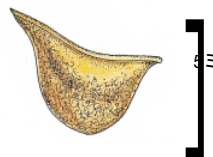
オヤブジラミ(キク科)



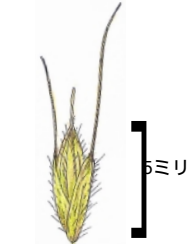
アメリカセンダングサ(キク科)



キンミスヒキ(バラ科)



ヌスピトバギ(マメ科)



ケチジミザサ(イネ科)

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum*

オモダカ科

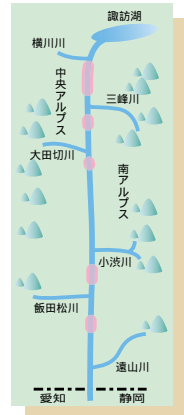


撮影 EAC

生活型：多年草、抽水植物

分布：日本各地

形態等：葉は根元から出る。葉は全長8~55cm、葉身は長さ4~30cm、幅0.5~4.5cmの披針形。花期は7~9月、白色~淡い桃色で、花弁3枚の花をつける。花茎は高さ20~80cm。



天竜川上流における分布

飯田市時又から辰野町新樋橋にかけての所々で確認した。個体数は少ない。水際の泥湿地に生育する。水田によく見られる。

オモダカ *Sagittaria trifolia*

オモダカ科

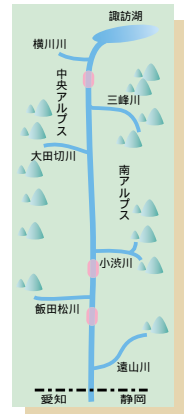


撮影 今井

生活型：多年草、抽水植物

分布：日本各地

形態等：葉は根元から出る。若い頃の葉は線形、狭長楕円形の葉を經、やがてやじり形の葉身になる。長さ7~30cm。花期は7~10月、花は白色で花弁を三枚つける。花茎は高さ20~100cm。食用にされるクワイはオモダカを改良した変種で、根茎を食べる。



天竜川上流における分布

飯田市時又、豊丘村芦部川合流、箕輪町三日町の3ヶ所で確認した。水際の泥湿地に生育する。水田によく見られる。